

「日刊マニラ新聞誤記事:比は絶望の国? -若者の自殺傾向」を巡るエピソード

英語版: <http://www.a-bombsurvivor.com/PDF/philippinesinformation/No.33.eng.pdf>

何時ものように、インターネット新聞各紙に目を通す中で、ギョッ!と感じて目にとまったのが「日刊まにら新聞」の記事「比は絶望の国? 若者の自殺傾向」でした。ドキッ!として記事を読みたいものの、同紙のインターネット記事はタイトルだけで、中身を読むにはお金を払って購読会員になる必要があります。クレジットカードのみの決裁であることから、断念していました。ほかでもありません、あまり必要としないことから、今までのクレジットカードはすべて解約していたのです。

と、偶然にも、私の周辺に住む同胞の方々の会(お助けネットワーク)に最近入会したことから、同胞の方4人が私の家を訪問されることを機に、同紙を購読しておられる方があることから、お願いして持ってきていただきました。イヤハヤ、驚くべき誤記事であることを一目みて(読んで)感じました。

同記事に接した私は同紙ホームページの「お問い合わせ」から誤記事であることを数行ですが、指摘して送りました。以下に同紙のコピーと同紙担当記者からの返信 E メール全文を掲載します。(罫線の消し方が分からないままで失礼します)

<p>先を要する。いろいろな日... (The text is partially obscured but discusses suicide statistics and WHO data.)</p> <p>比は絶望の国?</p> <p>若者の自殺傾向</p> <p>The Tone of the Press</p>	<p>ご連絡、ご指摘ありがとうございます。</p> <p>マニラ新聞編集部の大矢南と申します。</p> <p>ご指摘をいただきました、9月19日付けの論調記事ですが、毎週月曜日に掲載しております論調記事は、地元英字紙のコラムを日本語に訳したものでございます。19日付けのコラムは、13日付けのインクワイアラーのコラムを私が翻訳致しました。</p> <p>しかしながら、吉田さまのご指摘を受け、WHOサイトなどで確認しましたところ、吉田さまのご指摘の通り、コラムにある自殺統計の数字が大きく間違っておりました。</p> <p>自殺率については、WHO統計のフィリピンの調査年の欄に「93(年)」とあり、インクワイアラー紙のフィリピン人記者がそれを自殺率と読み間違えそのまま書いてしまったのではないかと考えられます。コラムの英文原文も再度確認しましたところ、翻訳ミスはありませんでした。しかし、翻訳記事とはいえ、統計の引用元を確認せず新聞記者として至極怠慢と言われて当然です。大変申し訳ありませんでした。今後はこのようなことがないよう、十分に英文原文の引用元をダブルチェック致します。大変恐縮ながら、英字紙の記事の内容については弊紙が責任を持ちかねる部分があります。修正記事を掲載できるかどうか、編集長と検討した上で、また私からご連絡させていただくことは可能でしょうか。何卒ご理解たまわりますようお願い致します。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。大矢南</p>
--	---

これに対して私は次のメールを発信しました。

大矢南さま
大変にご丁寧かつ納得のいくご返信を頂戴して嬉しく存じます。大好きなこの国と人達であり、かつ私のウェブサイトを通してかれらの良さを邦人の方々に紹介している者であるだけに、正直ホッとしています。昨日もフィリピン人兄弟でコンピューター技師をしている人物とこのことを語って、記事が間違っていると言ったところ、そうです！こんなことってゼツタイにありえないデス！と言っていました。先進諸国でナンバーワンの自殺大国ニッポンですが、ことあるごとにフィリピンの人たちの生き方を紹介して反省を求めている次第です。ともかくもホッとしました。
末尾に手前ミスですがこの国に移住して1年余で書いた拙著「貧しくとも心は豊か その根源を探る」(日英語)を下記に添付

してご参考に供します。わずか1年余のことでしたので、多少の思い違いがあるかもしれませんが、現在にして悔いのないものと自負しています。http://www.a-bombsurvivor.com/contents/Philippines_information/philippinesinformationNo.11.jpn.pdf 重ねて、ご丁寧なお言葉に敬意と感謝の意を表します。貴紙の一層のご発展を祈念してやみません。

これに対して再度、同記者から再度、次のメールを受けました；

吉田祐起さま

早速のご返信、また記事についてご理解下さりありがとうございます。ご紹介いただいた貴著もぜひ拝読させていただき、今後の記者活動の参考にさせていただきたいと思います。修正記事についてですが、編集長と協議の上、大変恐縮ながら修正記事は掲載しないことになりました。やはり独立する新聞社として、他紙の記事内容の責任はもちかねるという趣旨でございます。わたくしの確認不足は承知の上での決定です。今後は十分に原文引用元も確認致します。重ね重ねご理解いただきますようお願い申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。 大矢南

さて、以上のエピソードを披歴しましたが、記事修正といったことは新聞社のメンツにかけて避けたがるのが常とよく心得ているので、そんなことには全く無頓着ですが、折角の自作編集のウェブサイトがあるので、こうして事実の裏話を書き留めておくのも意義があると思う次第です。

私はこの記事に接して周辺のフィリピン人にこのことを語って私なりの意見を添えたものでした。ゼツタイに誤報だ、と言い切って新聞社に異議申し立てをすると息巻いた私でした。かれらは異口同音にそんなバカな！と一蹴しながら、私の反論にメールを送ってもらったものです。

記事が完全に間違いであることを確認したと伝えながら彼らにしみじみも言ったものです。「この俺は、君たちフィリピンの国と人達の尊厳とプライドを守ったぜ！」と。ちなみに、「自殺率の国際比較」をクリックしてみてください。<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/2770.html> 如何にフィリピン人の自殺率が低いかが理解できます。

さて、問題の誤報記事ですが、同文中に私の言わんとする表現の一節を見出しますので、以下にそれを再現します。曰く、「比人が楽しむことを何よりも愛し、陽気で、毎日『バハラナ』と言っては神にすべてを委ねる楽道家で知られていることを考えると、この統計結果は興味深い。しかし、日々の深刻な貧困と自分ではどうしようもない望みのない状況が人々に自殺を考えさせているに違いない・・・」(著者注釈:BAHALANAとは、「何事が起きても受け入れて、後で解決する」という意)

前半(アンダーライン)は私自身のフィリピン人観にマッチした国民性の表現です。願わくは、「興味深い」で片付けず、「オカシイ！」と疑念を抱いてもらっていたら・・・と期待しては思い過ごしでしょうか？前半の表現と後半の表現にあまりにも大きなギャップを感じ、かつ、それだけに、記者が翻訳する際にもっと疑問を抱いて英語執筆者に問い合わせをすべきではなかったのでは？・・・と、思います。

同記事執筆者(大矢さん)の人柄がしのばれるような丁寧かつ、ハンプルな表現のメールですが、惜しむらくは・・・と感じている次第です。ともあれ、大好きなこの国と人たちに対してかれらの尊厳と名誉と自負心を守ることができたことを限りなく喜んでいる次第です。なお、折をみて、本稿は英語版を作成してかれらに読んでもらいたいと願っています。

(追伸!!!)

本日9月24日午前2時30分、くだんの記者から下記のメールが入りました！なお、本紙入手次第、コピーを本稿に添付しますので、お手元にある同じリンクをクリックしてくださるとご覧いただけます。バンザ〜イ！って心境です。これで多くのフィリピンの人たちの面目が回復されたって心境です。日刊まにら新聞編集長さま関係者の皆様に心底伏して厚くお礼申し上げます。(9月24日追記)

吉田祐起さま

何度もすみません。マニラ新聞の大矢です。

修正記事について、再度編集長らと検討した結果、インクワイアラーの原文が間違っていたという趣旨の訂正記事を掲載することとなりました。24日付け1面で以下の記事を掲載致します。ご理解いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。大矢南

19日付1面「新聞論調」の、13日付英字紙インクワイアラー社説「比は絶望の国？」の翻訳記事で、「比人10万人に93人が自殺している」との原文の記述は誤りでした。世界保健機関(WHO)の2011年統計によると、比の自殺率は「10万人中2・1人」です。



(凝り性の私は以上の記者からの嬉しいメールを受けて、さらに下記の礼状メールを出しました)

大矢 南さま

天にも昇る心地！と言ったら大袈裟でしょうか？ホントに嬉しくてなりません！早速にくだんの記事の末尾に「追伸!!!」として挿入しました。

新しいパソコンは瞬時に再編集したものがウェブサイトに現れるのですが、メールに使っているこの古いパソコン(日本から持ってきました)では未だ出ません。たしか、以前お送りしたURLをクリックするとみれるはずですが、英語版も可能な限り追伸します。手に入ったら、というよりも、当該記事をスキャナーして当方へ送っていただければすぐにでも可能です。

ついでに願いを叶えてくださいませんか？

今回の出来事はドラマチックです！編集長さまほか関係部署の皆様「ヨシダがことのほか、大喜びしている」とお伝えください。感謝、かんしゃ、カンシャ！（そうだ、このメールも本項に追記します。アイデアが次々と出てきます。）

末尾におそろおそろお伺いします。大矢さんはファーストネームからして女性？ですか？(9月24日午前7時19分)

吉田祐起

2011年9月23日

吉田祐起

原爆証言者/健康生きがいづくりアドバイザー(フィリピン共和国ラグーナ州サンタローサ市在住)

Email; yoshida.yuuki@a-bombsurvivor.com

英語版トップ; <http://www.a-bombsurvivor.com/index.html>

日本語版トップ; http://www.a-bombsurvivor.com/index_japanese.html

(Copyright Yuuki Yoshida, All Rights Reserved)